

自分を見つめる
自分を育む
自分を愛する



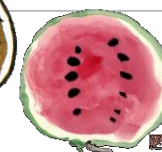
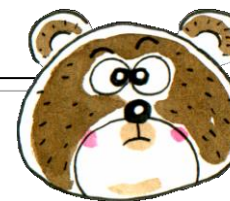
富良野遺跡(北海道)

教師をしていると年齢に関係なく先生です。正しいこと 正解を求める事が多くなります。結果エントリーの考え方が多くなります。エントリーというのは、それからスタートするという意味です。信念を求めて、まじめに突き詰めていくと疲れます。仕事とプライベートの境目もはっきりしない傾向にあります。生徒の事を考えたり、教材のことを考えているときはすべて仕事です。場所の問題ではなく、生徒の事を考えている時が仕事なのです。からだは、正しさではなく 幸せに反応すると言われていました。先生方の負担が少しでも和らげるサポートを心がけていきます。

人はなかなか相手を許すことができない局面に陥ることがあります。当然私もそのひとりです。過去にその人がしてきた言動にとらわれて 今でもそのようにするだろうと思ってしまうことが多々あります。実は、そうであることもそうでないこともあるわけで、必ずそうすることにはならないのです。それを、過去にこの人はことしたから、この考えだったから、こうだろうと思ひ込みます。自分の脳が妄想して、暴走します。そうすると、相手を許すということから、どんどん遠ざかります。まず、そのことに気がつきましょう。

目の前の相手を 過去の人とはなしているのではなく、今 目の前の人と話すことが大切です。そんな考えの基、他人を許すことができると自分の心は軽くなり、楽になります。対人関係がギスギスするのは、ほとんどこのようなことが想定されます。自分を楽にするためにも、他人を許す そして 自分を許すという発想が何かの役に立つと思います。これも、自立活動スキルのひとつです。

他人を許す
自分も許す
自己同許



叱り方のコツ⑦ 自分を見つめる自分を育むよう留意せよ!

○授業中に、机の下で紙片をちらちら見ている生徒がいる。こんなとき、どう叱るか。

・教師は、そっと近づき小声で「見せてくれないか」...「じゃあ、後でね」と授業を続けた。

・放課後、生徒がやってきたので「この頃、授業に身が入らないようなので気にしていたんだ」。

・生徒は、「悪いのは僕です」と紙片を取り出した。詰め将棋の問題だった。問題の締め切りが明日に迫っていることなどを話し出した。

・生徒は「将棋には持ち時間があって、その時間内に手を考えなければならない。僕のルール違反でした。すみませんでした。」と頭を下げた。教師は、「あのとき、無理に取り上げなくてよかった」と感じた。→愛を育てる 信頼を育てる ころの決まりを自分で作る 理想かもしれないけど大切にしたい子育ての土台なのかも……